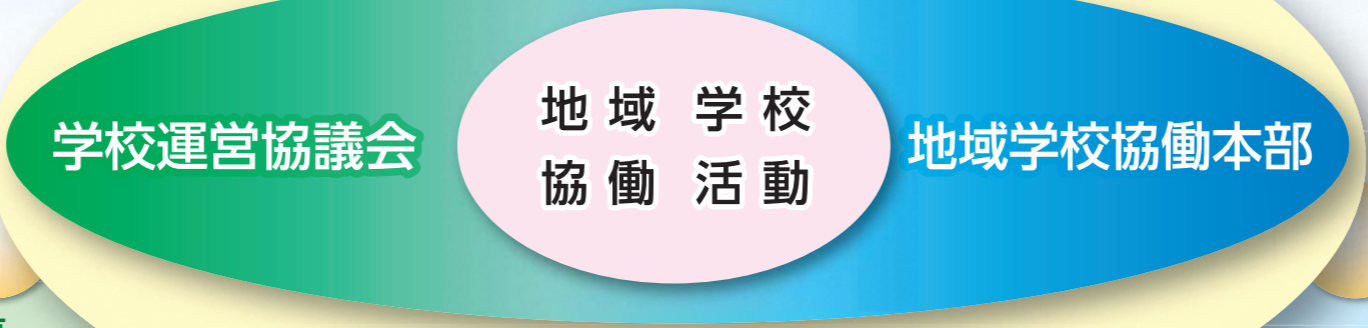


学校運営協議会と地域学校協働本部が 一体となって横浜の子どもを育てます

学校運営協議会は、地域・保護者の皆さんと学校が目標を共有し、一定の権限と責任を持って学校運営に参画する仕組みです。この仕組みを持つ学校を「**コミュニティ・スクール**」と言います。

地域学校協働本部は、既存の地域と学校の連携体制をもとにして、**地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)**が中心となって緩やかなネットワークを形成し、より多くの幅広い地域の皆さんや団体等の参画によって地域学校協働活動を推進する体制です。



- ・情報共有
- ・熟議
- ・課題
- ・目標共有



学校と地域の
架け橋

**地域学校協働活動推進員
(学校・地域コーディネーター)**

学校と地域が連携・協働することで地域の様々な宝物(人・もの・環境)を子どもたちの学び、育ちに活かすことができます



学校運営協議会は学校にどのように関わっていくのですか？
学校運営協議会は学校と対等の立場で、共有した目標に向かって熟議を行います。学校から様々な情報の提供を受け、学校長が示すビジョンや方針に意見を反映させます。

地域学校協働活動推進員(学校・地域コーディネーター)とは？
学校と地域の架け橋となる方で、地域や学校の状況に応じて、地域と学校が協働できる仕組みづくりを進める役割を担います。具体的には、学校ボランティアの募集・調整や地域学校協働活動の企画・運営などを行います。

なぜ？ 地域と学校が連携・協働することが大切なの？

社会や学校を取り巻く環境が複雑、多様化している中で、子どもに関する課題を解決して、横浜の子ども豊かな成長を実現するために、地域と学校が連携・協働していく必要があります。連携・協働のためには、地域と学校が目標を共有して、互いに積極的な取組を進めることがポイントです。

- 地域・保護者の皆さんが学校教育に参画することで子どもたちへの教育活動が充実します。
- 地域・保護者の皆さんと学校が顔の見える関係となり、学校の理解者、協力者が増えます。
- 地域の皆さんの交流が活発になり、皆さんのつながりがより広く深くなります。